

夢は畑がスーパーマーケット

新規参入 1年目



小田島 亜矢子さん（青森市）

就農のきっかけ

前職は、派遣会社で営業担当をしていました。元々、畑仕事が好きで家庭菜園を楽しんでいましたが、農作業の時間を増やしたいと思い、一昨年に正社員からパートに変更していただきました。それからは、週2、3日の勤務と農業のダブルワークをしばらく続けていましたが、本格的に農業に打ち込みたくなり、昨年11月に派遣会社を退職し、農業一本に人生を捧げる覚悟を決め、始めるからには化学肥料や化学農薬を使わずに作りたいたいと思い、有機栽培に取り組むことになりました。

〇就農に当たっての課題

有機栽培の知識がほとんど無かったため、最初は、本やYouTubeから知識を取り入れて独学で進めていましたが、最近は、有機栽培に取り組む仲間も増えたことから、お互いに情報交換をしながら進めています。

今年、青森市農業振興センターで研修を受け、講師から野菜の病気等について教えていただき、とても参考になりました。有機栽培は、雑草対策や病害虫対策で悩むことが多いので、もっと専門的な知識を吸収できる環境を整えていただきたいと願っています。



【Vege-marketの様子】

※ NPO法人シーズネットワークが運営するマルシェ
※小田島さんはNPO法人シーズネットワークに所属しています。



【おだしま農園の新鮮な野菜】

小田島さんの活動の様子はこちらから→Instagram: @odashimanouen

自己紹介

- 氏名・・・小田島 亜矢子さん（47歳）
- 出身地・・・青森県五所川原市
- 経営の概要・・・個人経営
 - ・経営面積・・・ビニールハウス1棟（60坪）、畑20a
 - ・作付品目・・・約20品目（ミニトマト、きゅうり、菊芋、ピーマン、キャベツ、ほうれん草、ブロッコリーなど）
 - ・販売先・・・青森県民生協（新城店、コスモス館、アカシア館）自然食品の店あおぞら、オーガニックハンドクラブ、Vege-market（7月～10月）

就農してからの課題や想い

〇取り組み

今年7月から10月の毎週日曜日に、有機栽培仲間にも声を掛けて、青森駅近くでマルシェ「Vege-market（略称“べじま”）」を開き、有機野菜を販売しました。対面販売の利点を活かし、野菜の特徴や調理方法を紹介するなど、交流を楽しむことができました。お客様からは「有機野菜を販売しているところが少ないので嬉しい」「珍しい野菜だから試しに食べてみる」など、嬉しい声もいただいています。

〇就農してからの課題

現在の農地は水田に囲まれている場所にあるため、米農家の方には、農薬散布前に声を掛けてもらうようお願いをしています。散布前にビニールハウスの窓を閉め、農薬が入り込むことを未然に防ぐ対策をしながら有機に取り組んでいます。

今後は畑に植えられたままの野菜に植札を付けて、お客様が欲しい野菜を自分で収穫して購入する仕組みを考えています。「畑がスーパーマーケット」になるイメージで、お客様が直接畑に足を運び、子ども達は農業に触れ楽しみながら収穫体験ができ、新鮮な野菜が食べられるといった「食育」にも繋がる形を想い描いています。

〇課題の解決方法

将来的には水田から離れたところに自分の農地を探し法人化を目指したいと思っています。

私が取り組んでいる有機農業を広めるためには、実際お客様に食べていただき、商品の良さを知ってもらうことが大事だと思っています。他県では、学校給食の食材として活用しているところもあるので、地元の学校給食でも有機野菜が活用される未来に期待を膨らませています。

就農を考えている方へのメッセージ

私のコンセプトは「楽しみながら仕事をやる」です。最初は大変な面もありますが、一生懸命育てた野菜が収穫できて売れば、大きな達成感や喜びとなります。栽培方法や販売先など、仲間からのアドバイスも励みになるので、人とのつながりはとても大事だと思っています。